

夏のプログラミング・シンポジウム 2014 報告

2014 年の夏のプログラミング・シンポジウムは、「ビューティフル・インターフェース」というテーマで、2014 年 8 月 24 日 (日) に、東京都目黒区の株式会社ドリコム プレゼンテーションルームにて開催された。2012 年以来の、東京で日帰り開催とする形式を今回も踏襲した。

4 月に、以下のような開催趣旨と共に、各所に発表募集の案内を配布した。

今年の夏のプログラミング・シンポジウムは、プログラミングにおける「インターフェース」について、美しさという観点から議論します。

プログラマにとって、自らが作るソフトウェアとその外の世界の境界面、あるいはまた、愛用するコンピュータを操作する際の、自分自身とコンピュータとの境界面をなすインターフェースは、常に大きな関心の対象でした。

その後、その関心はさらに、ソフトウェアと他のソフトウェアとの間のインターフェースへと広がり、ソフトウェアモジュールを切り分け、プログラム全体を設計する上で重要な概念のひとつとなりました。

近年では、3D スキャナや 3D プリンタなど、ソフトウェアの抽象的な世界と物理的な世界を、これまでに無かったほどダイレクトに結ぶ機器も普及してきています。さらに、生体信号を用いたロボットやライフログのシステムも登場しています。

本シンポジウムでは、非常に広義なインターフェースという概念について、特に、それらを評価する観点から、客観的な良し悪しの価値判断基準、主観的(ときには独断的)な美醜の評価、あるいは、未だ評価が定まっていない新しいインターフェースや、今後有望なインターフェースなどについて議論します。

例示した発表例は、下記のようなものである。

- API の美しさ・使いやすさ、持論を語る
- 美しかった懐かしのインターフェースを振り返る
- 美しくなかったかつてのインターフェースをこき下ろす
- お蔵入りになった幻の API
- API に忍び寄る肥大化

- ブレインマシンインターフェース
- 生体情報インターフェース
- 3D プリンタで作るインターフェース
- ロボットや AI のためのユーザー・インターフェース
- 最新インターフェースプログラミング実演
- ケーブル・コネクタ・プロトコルの今昔，設計談義

公表した発表募集の他，幹事団で検討した方々への発表の打診も行い，最終的には 10 件の発表申し込みを受け付けてプログラムを編成した。参加者は合計で 79 名で，当日夕刻に開催した懇親会には 35 名の参加があった。

各セッションでは，プログラミング言語から GUI や Web インターフェース，実世界インターフェースまで，さまざまなインターフェースに関する発表があり，活発な議論が行われた。発表内容の詳細については，報告集に掲載の各論文をご覧ください。

招待講演として，ヒューマノイドロボット演技指導ソフトウェア V-Sido の開発者である吉崎航氏に「人型ロボットのための自由なインターフェイス開発」と題する講演をいただいた。中でも，人間が遠隔操縦するロボットが，人間用にデザインされた運転席に座って重機を操る様子は，まさにインターフェースに関するさまざまな観念の転換を迫る刺激的な内容であった。

セッション終了後，夜の懇親会においても，飛び入りのライトニングトークが行われ，民間宇宙開発へのチャレンジや，油冷式スパコン運用の裏話など，わくわくするような話題が次々に提供され，議論が大いに盛り上がった。

最後になるが，発表者・参加者・その他 開催にご尽力いただいた方々に感謝の意を表したい。開催場所を快く提供いただいた株式会社ドリコムに深く感謝する。

2014 年 夏のプログラミング・シンポジウム幹事団

幹事長 前田 敦司 (筑波大学)

丸山 一貴 (明星大学)

中山 心太 ((株)DoBoken)

三廻部 大 (グーグル (株))